2024年４月25日発行　　発行人・栗木京子　編集人・大松達知
委員・駒田晶子，鶴田伊津

現代歌人協会　事務局　電話(03)3942-1287・FAX(03)3942-1289
170-0003　東京都豊島区駒込1-35-4-502　振替　00190-2-10916

現代歌人協会会報178

第46回現代短歌大賞（特別賞）授賞式報告

福士りか

二〇二三年十二月二十一日（木）東京神田の学士会館において、二〇二三年度臨時総会ならびに第四十六回現代短歌大賞授賞式・祝賀会、忘年会が行われた。

今年度は現代短歌大賞が該当無しであったため、竹柏会「心の花」の現代短歌大賞特別賞受賞を祝う会となった。コロナが五類に分類されたことで、三年ぶりの授賞式・忘年会開催でもあった。一般会員、関係者をあわせた約一二〇名が参加し、和やかな会となった。

臨時総会は小塩卓哉の司会で開会し、まず栗木京子理事長から「久々に顔を合わせて交流の機会をもてたことを喜ぶとともに油断せず生活を整えていきたい」との挨拶があった。またその中で二〇二四年三月十日に〈現代短歌フェスティバルin 奈良〉が開催されることが明らかにされた。

その後、審議に移り、篠弘氏の死去に伴う後任監事について案が示された。現監事は木村雅子、桑原正紀、篠の三名であるが、任期が残り半年であり、規約では監事は一～三名をおくと定められているため、篠氏の後任をおかず現監事二名で業務にあたるという案が示され、承認された。

続いて、第四十六回現代短歌大賞選考経過について、栗木理事長から報告がされた。今年度は、栗木京子、坂井修一、大松達知、穂村弘の四名が選考にあたった。現代短歌大賞は該当なしだが、竹柏会「心の花」に特別賞を与えることに決定した。授賞理由として、明治三十一（一八九八）年に創刊し、以来百二十五年に渡って活動を継続し、結社誌「心の花」が今年一五〇〇号の発刊を達成したこと、歌壇の中核を担う歌人を多く輩出していることなどが挙げられた。

次に、現代短歌大賞候補の対象期間の変更について話された。現在は十月一日から九月三十日までに出版された歌集を対象に十月上旬に選考会が開かれている。しかし、選考日程が厳しいため、対象期間を、「九月一日から翌年の八月三十日まで」とするよう変更することになった。

引き続き授章式が執り行われ、栗木理事長の挨拶ののち坂井修一副理事長が祝辞が述べ、「このたびの特別賞は、満場一致で決定した。現代短歌大賞は結社誌には与えられないので、特別賞ということになった。竹柏会「心の花」の本流には、歴史全体を見渡して対等な立場で対峙する自由な〈おのがじし〉が受け継がれている。」と語った。

佐佐木幸綱編集発行人への賞状と副賞の授与、花束の贈呈に続き、佐佐木氏より挨拶があった。

「一五〇〇号というと書架八段くらいの量がある。明治三十年代、四十年代に結社誌の創刊が相次いだのは、会員に便利に送れるようになった郵便事情と関連している。百二十五年経ってネット社会になり結社雑誌が曲がり角に来ている。プロとアマが接している短歌や俳句の媒体がどうなっていくか、知恵を出していただき、歌壇がいい形で発展すればと願っている」と話した。続いて大松達知が祝辞を述べ、「『心の花』の表紙に「明治三十一年二月十五日第三種郵便物認可」とサラッと書いてあることに驚きを禁じ得ない。第三種郵便は承認条件に「終期を予定し得ないもの」とある。「心の花」の身体は百二十五年もつながっている。」と語った。

その後、外塚喬の発声により乾杯し、祝賀会へと移った。祝賀会では当日出席の新会員として、朝比奈美子、飛鳥游美、今井聡、大貫孝子、小池美恵子、佐山加寿子、信藤洋子、鈴木良明、田中薫、丹羽智子、松浦彩美、三輪良子、森光子、和嶋勝利（五十音順）の十四名が紹介され、飛鳥游美、佐山加寿子、三輪良子の三氏から挨拶があった。三年ぶりに行われた会食を伴う祝賀会・忘年会は楽しく和やかに進み、一年を締めくくるにふさわしい会となった。